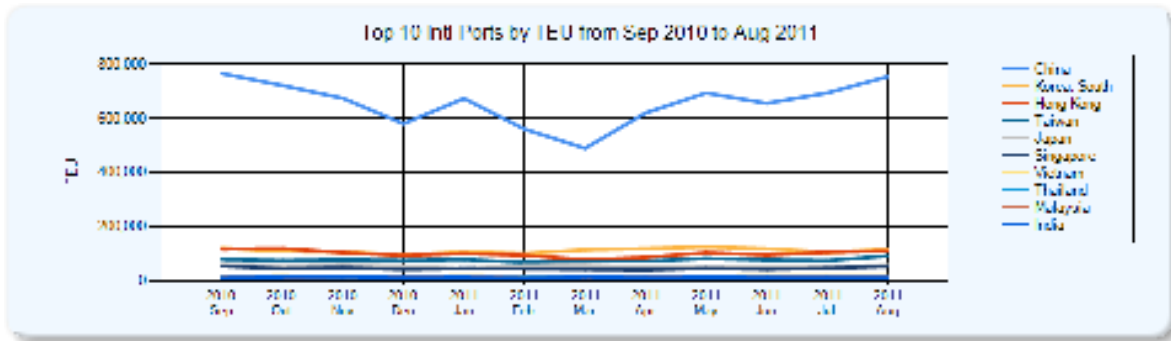


米国通関統計 8 月度輸入実績速報

ゼポ発表:アジア発米国向けコンテナ 8 月は前月比 9.3%増加、前年比は 4.6%減

前月比では中国が 8.7%増, 日本も前月比が 3 か月連続上昇で 10.5%の増加



(8 月度月別トレンド ; Top Line 中国)

Source; Zepol Corporation-TradeIQ*

Zepol (ゼポ) Corporation (本社・米国ミネアポリス www.zepol.com) は、9 月 7 日、米国税関 AMS・B/L データを基に、米国海上輸入 8 月度実績をまとめました。

それによると、アジア主要 10 カ国発 (B/L・Loading Port・母船積地ベース・実入り) TEU は、先月に比べて 9.3%の増加でしたが前年同月比では 4.6%のマイナスでした。

米国輸入全体の傾向も通関 B/L 件数ベースで 8 月は前月比で 9.79%のプラスでしたが、前年比では 0.85%のマイナスでした。1-8 月累計では TEU ベースで前年同期間に対して 2.35%のプラスでした。

主力の中国は 6 月が前月比でマイナス 5.4%の後、7 月は 6%増となり、8 月も 8.7%増と上昇しました。しかし前年比では 6-8 月は -9.4%,-3.4%,-4.1%と 3 か月連続のマイナスでした。ただし昨年 7-9 月実績は例年よりも前倒し出荷増があったことは勘案されるべきかと思われます。(表 1 参照)

上位グループの韓国、香港、台湾も前月比は上向きで、韓国は 2 か月連続のマイナスから、8 月は+10.5%、香港は+4.6%と 2 か月連続のプラス、台湾は韓国と同じように 2 か月マイナスの後 8 月は 23.4%の大幅増加でした。

日本発は前月比では 6 月の+2.3%、7 月の+3.3%に続いて 8 月は+10.3%の上昇で、ほぼ震災前のレベル近づきました。(表 4 参照)

シンガポールは前月の+10.7%に続いて8月も+13.8%と日本に迫っています。ベトナムは前月比-5.2%、マレーシアも-13.2%と(10か国の中で2か国だけが)マイナスでしたが、タイは+24.3%、インド+3%でした。各国の前年比については、台湾、タイ、マレーシアだけがプラスでしたが、その他はマイナスでした。(表1参照)

表1: アジア10か国発米国向け8月TEU (母船積地ベース・実入り)

| 母船積出港 | 8月 | シェア (%) | 前月比 (%) | 前年比 (%) |
|--------|-----------|---------|---------|---------|
| 中国 | 754,141 | 61 | 8.7 | -4.1 |
| 韓国 | 115,869 | 9 | 10.5 | -6.8 |
| 香港 | 110,833 | 9 | 4.6 | -16.9 |
| 台湾 | 92,114 | 7 | 23.4 | 6.1 |
| 日本 | 56,814 | 5 | 10.3 | -1.2 |
| シンガポール | 53,675 | 4 | 13.8 | -6.8 |
| ベトナム | 18,395 | 2 | -5.2 | -1.4 |
| タイ | 17,390 | 1 | 24.3 | 12.1 |
| マレーシア | 12,677 | 1 | -13.2 | 19 |
| インド | 12,064 | 1 | 3 | -11.1 |
| 10か国合計 | 1,243,972 | 100 | 9.3 | -4.6 |

Source: Zepol TradeIQ

表2: 釜山港TS国別シェアと推移 (8月)

| 荷受港 | 8月 | シェア (%) | 前月比 (%) | 前年比 (%) |
|--------|---------|---------|---------|---------|
| 韓国・自国分 | 52,132 | 49 | 6.1 | 1.2 |
| 中国 | 40,308 | 38 | 16.6 | -10.9 |
| 日本 | 4,568 | 4 | -2.8 | -19.9 |
| ベトナム | 2,126 | 2 | 18.2 | -7.9 |
| インドネシア | 2,115 | 2 | 33 | 8.9 |
| インド | 1,072 | 1 | 25.8 | 40.2 |
| その他 | 3,941 | 4 | 30.2 | -28.6 |
| 釜山港合計 | 106,262 | 100 | 11.1 | -5.9 |

Source: Zepol TradeIQ

韓国・釜山港のトランスシップ(TS)の前月比は中国、ベトナム、インドネシア、インドが韓国自国分+6.1%を大幅に上回る増加が目立ちました。(表2参照)

その中で、日本分全体は-2.8%と5月に増えた後は横ばい傾向ですが、5-7月と急増した新潟港発は8月は4月レベルに戻り、博多、大阪が増え広島、神戸、横浜が減ったのが目立ちます。(表3参照)

表3:釜山港発米国向け日本TS震災後の推移(8月)

| 荷受港 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 |
|-----------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 博多 | 2,297 | 1,989 | 2,147 | 1,262 | 1,104 | 1,319 |
| 大阪 | 559 | 464 | 549 | 425 | 374 | 460 |
| 広島 | 247 | 160 | 136 | 234 | 401 | 316 |
| 門司 | 233 | 270 | 223 | 207 | 186 | 230 |
| 神戸 | 298 | 257 | 231 | 225 | 347 | 253 |
| 細島 | 166 | 134 | 215 | 110 | 257 | 218 |
| 横浜 | 132 | 56 | 243 | 230 | 255 | 192 |
| 徳山 | 194 | 192 | 236 | 129 | 173 | 161 |
| 志布志 | 133 | 94 | 100 | 208 | 82 | 80 |
| 新潟 | 34 | 91 | 409 | 509 | 417 | 109 |
| その他 | 886 | 759 | 1,205 | 982 | 1,105 | 1,230 |
| 釜山 TS 合計 | 5,180 | 4,466 | 5,693 | 4,520 | 4,701 | 4,568 |

Source: Zepol TradeIQ

表4:日本港発米国直行TEU震災後の推移(8月)

| 母船積出港 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 |
|-----------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 東京 | 16,560 | 13,727 | 14,944 | 15,710 | 16,624 | 18,425 |
| 名古屋 | 15,276 | 14,061 | 13,298 | 11,682 | 12,256 | 13,900 |
| 神戸 | 9,803 | 10,851 | 8,810 | 9,067 | 8,846 | 8,937 |
| 横浜 | 9,816 | 6,881 | 6,568 | 6,606 | 7,351 | 7,563 |
| 清水 | 2,707 | 2,115 | 2,212 | 2,072 | 2,333 | 2,983 |
| 大阪 | 1,762 | 1,839 | 1,753 | 2,136 | 1,867 | 2,156 |
| 博多 | 307 | 157 | 656 | 1,659 | 1,520 | 2,023 |
| 仙台 | 1,032 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 519 | 433 | 545 | 852 | 619 | 826 |
| 合計 | 57,782 | 50,067 | 48,786 | 49,784 | 51,416 | 56,814 |

Source: Zepol TradeIQ

次に、主要輸出品目の一つである自動車部品(HS8708)について、日本発だけでなく中国、韓国、台湾、インド発の推移と競合状況を付記致します。(表5,6,7参照) 根拠となるデータは、米国商務省統計で、月次の元データをゼポが直接入手し、TEU税関データと同様に独自の検索エンジンでデータベース化したものです。データの特徴は、貿易金額の国別、品目(HSコード)別統計に加えて、海上コンテナ、航空輸送も貨物重量・金額に区分されておりマトリックス分析が可能な点です。

9月9日に発表された商務省7月分統計から同品目合計を概観した結果は次の通りです。

- 1) 日本は7月実績で重量ベースではシェア17%で3位となった。
53%の1位中国には大きな差があるが2位の韓国は18%で4月以降は日本とほぼ同レベルで推移している。
- 2) ただし、同じ品目合計で、コンテナ貨物分の金額ベースでの比較では、日本がシェア39%で1位、中国が31%で2位、韓国は18%で3位である。
- 3) 日本発の震災後の推移は3月をピークとしたとき、7月時点で重量ベースでは73%、金額ベースでは70%のレベルまでの回復である。6月を底に7月から反転している。(航空貨物分については別途分析が必要です)
- 4) 日本の3月以降の減少に対して、反対に中国が重量、金額の両方で増加したことが明白である。
- 5) 金額ベースで6月に日本と中国が一時並んだことから、反転したとは云え、今後、生産シフトなどで、中国との1位争いが起きそうである。
- 6) 韓国とは重量ベースで接近した動きとなっており、14品目の中で、韓国生産画優位のものが出てくれば重量ベースで2位を譲ることになる。
- 7) 14品目それぞれについて分析し、日本からの生産シフトの動向をウオッチする必要がある。

表 5: 自動車部品(HSコード8708)

アジア主要輸出国発コンテナ荷動き(重量ベース・kg) (7月)

| 輸出国 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | シェア (%) |
|-----|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|---------|
| 中国 | 85,899,047 | 121,026,819 | 124,523,643 | 126,659,194 | 122,457,764 | 53 |
| 日本 | 53,078,119 | 38,934,019 | 41,076,708 | 32,772,942 | 38,696,726 | 17 |
| 韓国 | 43,924,061 | 42,995,842 | 43,870,283 | 38,616,527 | 41,126,591 | 18 |
| 台湾 | 14,279,697 | 15,094,347 | 15,737,918 | 14,358,308 | 14,318,437 | 6 |
| インド | 11,352,972 | 10,576,607 | 9,866,549 | 9,340,373 | 8,990,302 | 4 |

Source; Zepol TradeView/米国商務省統計

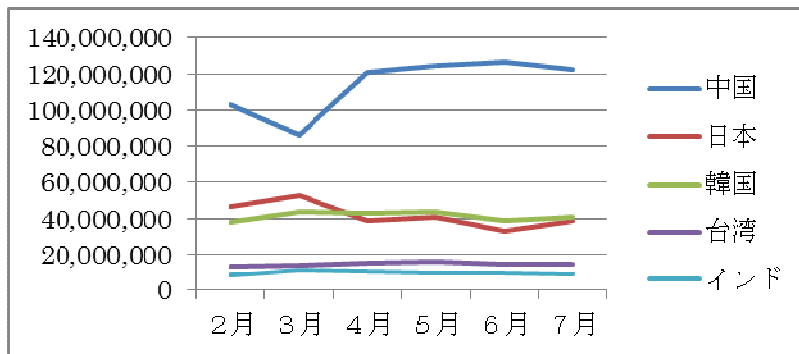


表 5: 自動車部品(HSコード8708)トレンドチャート

表6: 自動車部品(HSコード8708)

アジア主要輸出国発コンテナ荷動き(輸出金額ベース・US\$) (7月)

| 輸出国 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | シェア (%) |
|-----|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------|
| 日本 | \$700,847,014 | \$460,342,070 | \$506,775,744 | \$396,149,997 | \$489,418,394 | 39 |
| 中国 | \$288,904,525 | \$385,224,108 | \$393,228,700 | \$390,166,280 | \$385,499,396 | 31 |
| 韓国 | \$224,760,687 | \$227,953,775 | \$240,405,109 | \$214,835,755 | \$227,476,213 | 18 |

Source; Zepol TradeView/米国商務省統計

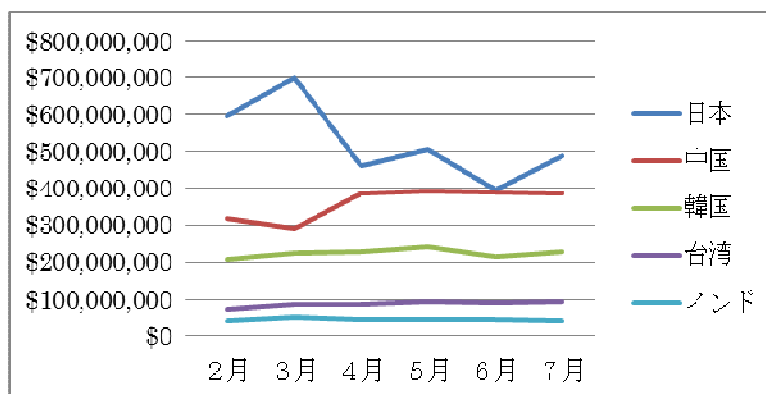


表6: 自動車部品(HSコード8708)トレンドチャート

表7:14品目とそれ以外の構成

| HS 8708 | 構成(%) | コンテナ重量 (kg) | HS Code |
|---------|-------|--------------------|---------|
| 下記以外の部品 | 25 | 58,455,358 | 870899 |
| 車体部品 | 12 | 26,396,940 | 870829 |
| ギアボックス | 5 | 11,036,886 | 870840 |
| ブレーキ | 27 | 61,564,922 | 870830 |
| 車輪 | 12 | 28,107,883 | 870870 |
| サスペンション | 5 | 12,556,571 | 870880 |
| ハンドル | 3 | 6,379,342 | 870894 |
| 変速・駆動軸 | 4 | 8,206,148 | 870850 |
| クラッチ | 2 | 4,584,431 | 870893 |
| ラジエーター | 1 | 3,259,576 | 870891 |
| バンパー | 2 | 3,881,716 | 870810 |
| マフラー | 2 | 4,093,032 | 870892 |
| エアバッグ | 0.2 | 487,735 | 870895 |
| シートベルト | 0.1 | 190,043 | 870821 |
| | 100 | 229,200,583 | 14 品目 |

Source;Zepol TradeView/米国商務省統計

**** Zepol (ゼポ) トレードデータとは ???**

* Zepol TradeIQ は、米国税関から公表される AMS (Automated Manifest System) B/L 記載データを Zepol (ゼポ) が独自開発した検索エンジンによりデータベース化した米国貿易統計データで、輸入通関後約 1 週間で分析結果をオンラインで把握することができます。

* 毎日数万件に及ぶ全米各港からの B/L 情報が 2003 年以来、既に 9 千万件蓄積されており、ゼポのデータベースにユーザーはどのパソコンからでも簡単にアクセスし、検索・作表・ダウンロードが可能で、IT のパワーをフルに活用した社外リソースとして各業界・機関から評価されています。

- * ロジステック関連 I T ソリューション・プロバイダーとして、ゼポは 2011 年発表の
 “Top 100 Logistics IT Providers” にも選ばれています。
 (www.inboundlogistics.com/lit/top100.shtml)
- * P C 画面上で **B/L #, Shipper, Consignee, Ports, Carrier, Products, Weight, TEU** などの個別 B/L 記載内容のマトリックス分析が簡単に行えます。
- * 又、Container Type, LCL/FCL, Empty/Loaded, FROB 貨物、などの区分も簡単で目的に応じた分析が出来ます。
- * 毎月、約 40 日後に発表される米国**商務省貿易統計**も、同じ検索エンジンを使い、コンテナ貨物、航空貨物について、重量・金額別、国別・米国港別に、HS 品目コード毎のマトリックス分析が商務省発表の同日に可能となりました。(Zepol TradeView)
- * ゼポのトレードデータは**政府統計**としての情報価値に加えて、米国情報公開法により入手可能となっている通関時の**個別 B/L 記載データ**は**見過ごせないファクト情報源**です。
 ゼポのクライアントはポートオーソリティなども含めた海運・航空輸送関係だけに限らず、化学、食品、機械、電機、など幅広い業界にわたっています。

例えば国別、港別の品目別トレンド画面から、すぐに同じ P C 画面上で荷主、相手港、輸入先、船社/NVOCC、品目・数量などアクチュアル情報への掘り下げを行いアクションに結び付けています。

速報性の高い統計分析ツールであると同時に市場競争の為のツールとして活用されています。



www.Zepol.com

本リリースの内容と Zepol (ゼポ) に関するお問い合わせ先：

日本：Zepol Japan mnanseki@zepol.jp